

知恵の樹

No. 166 2012. 3. 21

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

松野幸雄さんを偲んで

今号は、先月急死された松野幸雄さんを偲んでの追悼号です。たくさんの方々から思い出が寄せられました。ありがとうございました。

松野さんの思い出

手嶋 孝典

あまりにも早過ぎた、あっけない最期だった。

松野幸雄さんは、1972年に町田市役所に入職した同期の仲間である。彼は就職から退職まで38年間ずっと図書館勤務だったので、途中から図書館に異動し、更にあちこち寄り道した私とは図書館のキャリアがまったく違う。

松野さんとは、特に気が合うということもなく、むしろ意見が異なることの方が多かったが、彼から学んだことはたくさんあった。そのうちの2例を紹介したい。一つは、移動図書館で巡回日程表の配布を徹底して行ったことである。最初のうちは、『広報まちだ』にも載っているし、必要な人は自分で持っていけばいいのに、なぜそこまで執拗に渡しているのかが理解できなかった。でも、それは何とかして移動図書館を利用して欲しいという彼の情熱の現れだった。そのことに気付いて以来、私も巡回日程表の配布漏れがないか気を配るようになった。

もう一つは、他館籍資料の活用についてである。町田市立図書館は、資料に館籍がある。館籍というのは、帰属している館のことである。01は

中央、02はさるびあというように表示される。細かいことは省略するが、レファレンス・地域資料や雑誌など特別のものを除いては、館籍は無視してもいいことになっている。というのは、視聴覚資料以外は、市内の図書館なら、どこでも返却できるからである。つまり、館籍にこだわっていると他館籍の図書はすべて館籍館に戻さなくてはいけなくなってしまう。これは、まったくもって不合理である。なぜ不合理かという、①メール便の運搬量が増える(予約資料だけでも大量にある)、②メール便に載せるための待機時間とそれが館籍館に戻され、書架に並ぶまでの時間を含めると、図書が死蔵されている時間が長い、ということになるからである。それでも他館籍の図書を戻そうという誘惑は断ち難い。そもそも自館籍の図書で書架が一杯だから、他館籍の図書を受け入れる余地はないというのが大方の理由である。松野さんは、これを逆手に取り、他館籍の図書を積極的に受け入れた。それによって、蔵書構成は多様化し、松野さんが係長だった頃の鶴川図書館の貸出しを大いに伸ばしたのである。鶴川図書館は、6館ある市内の図書館のうち、最も小さな図書館であり、

蔵書数も最少である。自館の蔵書だけでなく、他館の蔵書を効果的に活用したことで、利用者にとって魅力的な書架をつくったという訳である。この手法については、私も大いに共感し、現在でも余程のことがない限り、他館籍の図書を一度は書架に並べるようにしている。

松野さんが私に対してしてくれたこと。これも2例を紹介することにしたい。一つは、司書講習を受講するように勧めてくれたこと。詳しい経緯は割愛するが、あの時、司書講習に行っていなければ、私の人生は違った展開になっていたはずである。

松野さんのこと

守谷信二

昨年12月15日の午後、秦野の赤十字病院に松野幸雄さんを見舞った。あまり思わしくないと聞いていたが、本人は意外に元気そうで、持参した薄っぺらな地域資料のパンフレットを、ことのほか喜んでくれた。

30分ほどもいて帰り際に、「まあ松野さん、ともかく頑張ってください」というと、「何をおっしゃる。この病気でどう頑張るんですか」と相変わらずの憎まれ口をきいて、「いやあ、満足ですよ。38年間を好きな仕事一筋で全うできたんだから」とボツリと言われた。

松野さんは私より3つ年上の先輩だったが、お互い意固地なところがあるから、在職中はよく喧嘩もした。否、松野さんが声を荒げることはなかった。言い募るのはいつも私のほう。図書館員だからといって、何でも捨てずに取っておくような

再びの別れ

玉目 哲康

昭和47年4月、町田市役所に就職以来私が町田を離れるまで、多くの時間をともに過ごしてきた。松野さんを最初に見かけたのは、K市の面接会場でした。背の高さとその風貌が印象に残っていた。あれから40年を超える付き合いであった。

もう一つは、私に市民税課への異動内示が出た時、内示撤回に向け、図書館の多くの組合員とともに行動してくれたこと。撤回こそ叶わなかったが、3年で図書館に復帰することができたのは、多数の組合員が夜遅くまで残って、助役との団体交渉に臨み、覚書を締結するまで闘ってくれたからである。

松野さんは、定年退職後2年も経たないうちに逝ってしまった。なぜ、そんなに死に急いだのだろうか。図書館史を書くためと言っていた膨大な資料を残して…。どうか安らかにお眠りください。

(町田市立さるびあ図書館・会員)

ところがあり、それらの入ったダンボールを書庫の隅に何年も山積みしたままにする。好きなレファレンスには人一倍力を入れるくせに、児童サービスなどには案外冷淡だったりもした。何事によらず一旦こうだと決めると、誰が何と言おうと曲げないような頑固さがあった。

それでも亡くなられてみると、それはそれでひとりの図書館人の見事な生き様だったように思われる。いつか必ず「町田市立図書館史」を書くのだとも言っていた。

病室を出ようとすると、「守谷さん、廊下の突き当りから見える富士山が見事だから、ぜひ見て帰ってよ」と言う。そこからは確かに、夕暮れの冴えた空気の中に屹立する富士のシルエットが、本当に息を呑むほど美しく眺められた。窓いっぱい。

(町田市生涯学習部・会員)



一緒に古書展に行き、アーチェリーをし、スキーに行き、海にも行き、バドミントンもした。食べ物では、ウナギやエビなどの形があるものが食べられなく、彼の隣にいて「おい、玉ちゃん食べてくれ」とよこすのだった。

本当は学校の先生になりたかった。また、神主

さんにもなりたかったそうである。それでも司書を天職といい。図書館で定年を迎えられたことを卒業といていたのである。

私たちが採用された時の辞令には、一般事務職を命じる。兼ねて司書を命じてなっていて、彼を図書館に留まらせてくれていた。レファレンスをたびたび担当し、すぐに応えられないもどかしさを人一倍感じた結果小さい図書館よりも自分が持っている本の数は多いといていた。本を追いかけて西に東にとブックオフのお得意さんだった。

松野さんを悼む

折登 満

松野さんとは、同じ市役所職員でありながら同じ職場で働いたことはない。いつの頃からか、春になれば桜を求めて各地を歩き、夏になれば水着ギャルをもとめて海辺をさまよい、秋になれば紅葉の社寺をめぐり、冬は温泉を巡って北海道から沖縄まで行った。松野さんが亡くなった時、どこかに松野さんの子どもがいて、葬儀のとき、ひょっこり現れるかもしれないと期待したが、そんなこともなく清廉潔白だった。

友達として、私はいい人だったのか・・・吉田兼好は徒然草で「友にするにわろき者、七つあり」として、その一つに「病なく身強き人」をあげている。病気一つしない人は、他人に対する思いやりがないとの意味なのです。自分の健康に安住して、松野さんの病気を気にせず、ビールをすすめた私、わろき友だったような気がする。

松野さんとの思い出

黒田 一郎

松野さんが亡くなって 2 ヶ月が過ぎた今、ただ感謝の言葉しかありません。

私が、松野さんにはじめてあったのは、病院内でした。1990年に図書館に異動し、毎月第2木曜日午前の全体研修で、研究会活動があり、同じ「マニュアル研究会」に入りました。5月から活

一昨年夏の友達との北海道旅行は、卒業旅行であったのだろうか。とても楽しかったともう旅行がかなわなくなってから言っていた。

私が町田を離れてからも静岡の新しい図書館のオープンを祝ってくれ、熊本に行っても長期の休暇を利用し九州一周の途中に寄ってくれるなど細やかな気配りを忘れない人だった。

君が書こうとした3冊の本、「町田図書館100年史」「ネコの写真集」「レファレンスよもやま話」、読んでみたかったなあ。

(町田市立図書館協議会委員・会員)

ごめんな～松野さん。

私は松野さんにとって、よき友であったのか、・・・兼好法師が言っている。よき友に三つあり、一つは物くる人、二つはくすし(医者)、三つは知恵ある人。私は医者でもなく、松野先生のように文学に秀でてもない。貢げるほどの資産もない。ときどき「まんじゅう」を一つ、二つ持ってきたぐらいである。そんな私が先日1000円の記念硬貨をあげようと、やっと抽選に当たったその硬貨も、渡す前に君は亡くなり、いまだ私のポケットの中にある。ごめんな～松野さん。

「折登家の人々」では、乗物師をしらべてくれて、「けやぐ新聞」をいつもほめてくれた。松野さん。ありがとう。

これからは、松野さんが行けなかったところ、行きたい所へ一人旅をしようと思う。いつか、あの世で会えるまで、さようなら。(町田市役所OB・友人)

動したのですが、松野さんは中央図書館の準備中に過労で倒れ入院されていました。研究会のメンバーでお見舞いに行くことになり、私も付いて行き、そこで初めて会いました。その年の10月にさるびあ図書館に異動で来られました。その時、さるびあ図書館の本を、保存するもの、廃棄するものなどに整理する仕事を、寒空の外で一緒に

しました。そこで、「この本は〇〇で有名だ」とかの説明をするとともに、図書館の仕事の楽しさや奥深さを話してくれました。

松野さんは、1992年中央図書館主査に転出されました。私も1996年4月に中央図書館に異動し、松野さんの下で、リクエスト担当になりました。その時には、今のインターネット検索と違い、冊子目録で調べていました。目録の使い方などのリクエスト調査の仕方を教わりました。

私は1997年4月に整理担当に移り、松野さんは1998年4月に中央図書館奉仕係長にられました。私は、1999年には、組合の中央図書館分会の役員になりました。その時、「組合の動員で人数が足りないときは、いつでも声をかけろよ！協力するから。」とってくれました。役員としてどんなにありがたかったことか！その後も、組合の総会には必ず出席してくださいました。

2000年に私は、国社研の図書館司書専門講座を受講しましたが、松野さんはその講師をされました。

松野さんは、2002年に鶴川図書館に異動になり、私も鶴川図書館に応援に行きました。そこでは「鶴川図書館は、予算が少なく本もあまり買えない。いつ来ても同じ書架だと飽きられる。毎日少しずつでも書架に変化をつけるのだ。」と話されていました。その結果は、貸出数増になりました。

松野さんは、『図書館用語辞典』の編者でもあられます。これからもっと、図書館界のために、ご指導、ご鞭撻を賜りたかったのですが、それができず、残念です。安らかにやすみください。ほんとうに長い間ありがとうございました。

(町田市立木曾山崎図書館・団体会員)

松野さんの思い出

高松 昌司

私は新卒で図書館に配属され、しかもそれまでは図書館の事を何も知らない素人でした。そんな私の新人研修の時、図書館資料論や図書館の自由について教わったのが松野さんでした。凄く早口で詰め込む感じでしたが、退屈でも難解でもない充実したものでした。凄く物識りでユーモアもある方だなあと感じたことを覚えています。

その後自由委員会で一緒になったとき、新人研修は「10言って1でも残るように沢山喋った」とのこと。松野さんほどの知識と図書館への想いがあったからこそその充実した講義が出来るのだと感心しました。

ある六分会の集会で私が挨拶したときに「高松君もしっかりした事を言うようになったねえ」と感心されました。何気ない一言ではありましようが素直

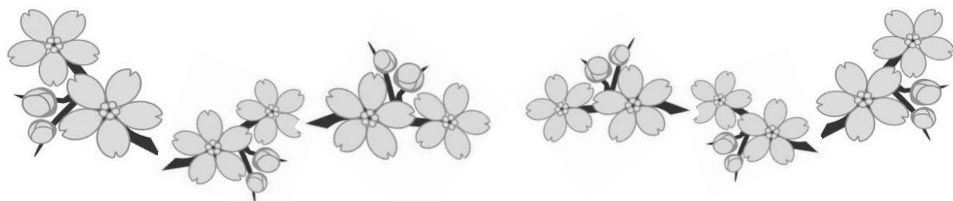
に嬉しかったものです。

松野さんはあれだけの知識と持ちながらも常に学ぶ事を忘れない方でした。レファレンスカウンターでも『日々勉強だよ』と口ぐせの様に言いましたが、この言葉があれほど説得力を持つ人を他に知りません。

あまりにも早いお別れはとても残念です。町田の図書館は松野さんと共に歩んできた感があります。その歩みはあまりにも偉大で後ろに続く私などは気後れしますが、少しでもその教えを受けた者としてもっと勉強し、仕事に生かさねばなればと思います。

長い間本当にお疲れさまでした、そしてありがとうございました。

(町田市立中央図書館・団体会員)



どの本読もうかな 2011年児童書新刊から

講師：広瀬恒子さん（親子読書地域文庫全国連絡会代表）

2012年3月1日 町田市立中央図書館 6Fホールにて 10:30～12:30 参加者40名

★はじめに

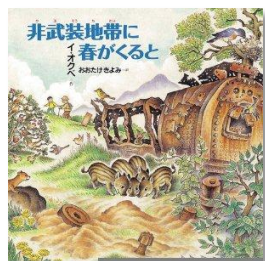
2011年は3月11日をはずしては語れない年となりました。被災者のなかには、大きな喪失と不安のなか、子どもたちもひたむきに毎日を過ごしています。そんな中「本が与えられることの出来る可能性」をわたしたちに問いかけられた機会でもありました。

被災地への児童書寄贈や移動図書館再開のニュースなどに、ほんの少し救われる思いがしたことも少なくありません。今回紹介された新刊の中にもきっと「生きる力や希望」につながるものが、たくさんあることを期待しています。

★児童出版動向

昨年に引き続き、出版点数が3000点を下回り、いっぽう海外への発行点数が増加傾向にあるとのこと。アジア圏（中国、韓国、台湾）がシェアの上位をしめるが、絵本のほか読み物も増えそうとのことです。

★出版内容の特色



日・中・韓三か国による共同平和絵本の刊行とともに、国内のベテラン人気児童文学作家による、作家自身の体験をベースに紡ぎだされた作品も顕著な年であったと

のこと。一部ではありますが、「ズッコケ三人組シリーズ」で有名な那須正幹氏によるヒロシマ三部作『歩き出した日』『様々な予感』『めぐりくる夏』、「コロボックルシリーズ」の佐藤さとる氏による『海の志願兵』、富安陽子



氏の『盆まねき』などが紹介されました。

なかには、児童書に従軍慰安婦問題にも触れた作品が出版されたということも印象深いものでした。

★絵本について

先程、触れた日・中・韓三か国による共同平和絵本の刊行は、平和と対比する戦争についてそれぞれの国が受けた傷や苦しみ、痛みを後世に伝えてゆく試みの一つの表れとも思え、それは過去のものだけでなく、今に続く負の遺産である戦争をこれ以上起こらない抑制剤として子どもたちのやわらかな心の中に浸透してほしいと願うばかりです。

一方、幼い子どもたちにおはなしを理解しやすくするための絵本でなく、絵そのものをことばあそびとのコラボレーションとして描く作品が出版されています。国内作品では、個性的な画家である荒井良二氏の『あさになったのでまどをあけますよ』や国民的詩人、谷川俊太郎氏の『おはなししましょう』が出版されています。ものがたりとはまた味わいかたの違う、絵や言葉あそびの魅力を堪能できることでしょう。

たのしい気持ちはユーモアのなかからも生まれます。そんな中、紹介されたのが若手新人作家の清水真裕・青山友美が送り出した『たかこ』、ベテラン演技派女優兼文筆家でもある室井滋氏の『しげちゃん』、やさしく機転のきくクマがねずみたちをたすけながら、危険いっぱい森を無事抜け出す『くまんと6ぴきのしろねずみ』の



翻訳絵本でした。

『たかこ』の表紙は平安のお姫様をドアップにしたインパクトのあるものですが、そのストーリーも平安時代からきた、たかこ姫が現代の小学校に転校してくるもの。発想のユニークさばかりでなく、同じ日本語でも平安貴族とは大違い！まるで外国語のようなたのしさと、ことばの発見をさせてくれます。

ノンフィクションでは、DV(家庭内暴力)を扱ったノルウェイの作品『パパと怒り鬼』が、個人的に印象的でした。現代はインターネットをこどものうちから親しむ時代であるゆえ、早くから多くの情報に触れる恵まれた一面と同時に刺激的すぎるものも氾濫しています。そんな中、子供にも社会問題を適切に理解してもらおう作品の存在は大事だと思います。

★よみもの

大きな災害が起きた影響も少なからずあったと思われませんが、「生きる」というテーマに向き合った作品も紹介されました。児童書からYA、一般小説まで幅広い筆力を持つ作家のひとり、梨木香歩氏の『僕は、そして僕たちはどう生きるか』、児童作家の大御所、魚住直子氏による『クマのあたりまえ』、ドイツナチスから娘を逃すため、父が

支援者の医師のもとに暮らす娘にあてた手紙をもとに作品化した『父さんの手紙はぜんぶおぼえた』など。特に印象深かったのは、イギリスのカーネギー賞受賞作『ボグ・チャイルド』で、アイルランド紛争を背景に、湿地帯で発見された少女の死の謎をからめた重厚な作風に、作者のなみなみならぬ力量を感じたが、残念ながら急逝してしまいました。国も状況も違えど、それぞれ「生きるため」の希望や懸命さを謳った作品が数多く出版されました。

児童サービスを担当しているものは、すべてに目を通したいものですが、なかなか追いつかない現状もあり、今回の広瀬先生の長年の児童書と歩まれた経験から、印象深い作品を厳選して紹介していただき、順に読破したいという思いとともに退室しました。(鶴川図書館 貴堂智恵子)

2012年度 第1回 文学館(主催)で楽しむ
おとなのためのおはなし会(通算 59回)
4月19日(木)10:30~11:30
町田市民文学館 2F大会議室
プログラム
*町田ゆかりの作家「赤川次郎」森まり子
*いばら姫(グリム童話)丸岡和代
*くわすによぼう(日本の昔話)太田晶子
*高瀬舟(森鷗外作)望木祐子
直接会場へどうぞ! 無料 保育有
(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

連続講座2 『みんなで創ろう学校図書館 みんなで話そう学校図書館』 報告

日時:2月19日(日)13:30~16:30 場所:市立中央図書館6階ホール 参加:22人(含会員8人)

〈第1部〉実践報告: ①パネルシアター『にちようび おいで』小学校の図書の時間に10分位を使って実践しているわらべうた・絵本読み聞かせ・パネルシアターなどを披露。(谷釜)

②アニメーション『図書館でねこ調べ』(岩辺氏のアニメーションをアレンジ)を図書館ガイダンスのひとつとして1年生に実施。『図書館ねこデビュー』紹介の後、ゲーム感覚で0~9類の本の1ページとり

ストを照合して当てる。分類の内容や実際の場所を楽しく学び体験できる。(水越)

〈第2部〉交流会

会から昨年12月に“すべての町田市立小中学校の図書館に「専任・専門の学校司書」の配置を求める請願”が採択されたことを報告。また、来年度国から「いわゆる学校司書」配置のために予算

が地方交付税で措置されたことも報告。(概算:時給¥1000×1日6時間×週5日、年間175日分、1人105万円。約半数の学校分)参加者は、主に市内小中学校の図書指導員とボランティア・コーディネータ。日頃の疑問や悩み、請願が採択されたことについて、考えるところを話してもらった。

① **パソコンの導入について:**導入したが、よくフリーズする/念の為に手書きの貸出手続きもしている。

② **図書指導員の立場について:**読み聞かせボランティアと図書委員と図書指導員との3者で、どう仕事を分担したらよいか悩んでいる/引越しがあがり、配架やレイアウトなど全て指導員にお任せ状態/全クラスフルタイムで、読み聞かせやアニメーションなど、図書指導員が自由にやらせてもらっている、1日6~7時間出ている/中学校は図書の時間が無いのであまり使われていない状態/仕事とは思わず、ゆるく楽しんでやっている/都の講師を同時にやっているが、報酬の違いに驚いている/図書指導員と呼ばれているがボランティアの扱い。パートよりひどい/話し合いの場がないので、他校がどうなっているのか分からない。

③ **請願採択について:**資格の無い者は辞めさせられるのだと思った/専門とは司書の資格という意味か?/今の自由なやり方が気に入っている、お金がもらえると縛りが必ずあるので困る/バーコードの新しい教育を受けている有資格者がローテクな現場でやっていけるのか/学校には発達障害など様々な困難を抱えた児童がいるので、司書資格だけでは対応できないとも思う/有資格者が求められるのなら、続けたいので資格を取ろうと考えている/1日6時間、週5日拘束されて時給¥1000では他の仕事はできないし、報酬も十分ではない。自分達の首を絞めることにならなければいいが・・・/請願は通ってよかった。子どもたちのことを考えてやらなければと思う。

④ **ボランティア・コーディネータから:**コーディネータは校長から依頼され、来年度で全校配置。研修は頻繁/依頼があると、学校支援センターのボランティア登録から探す/中学校からの依頼は少ない/図書指導員の仕事を知らたいと思って出席した。

⑤ **会より:**パソコン導入を学校に任せているので進まない/予算の使い方も学校によってまちまち。町田の中学校は地方交付税措置図書費の半分しか使っていない状態/バーコード化がスムーズにいかないのは、学校司書が常任でない為に起きる様々な弊害の1つと考えるべき/専門の意味合いは、必ずしも司書資格だけではなく経験も問われるし、司書資格だけでは負えない面もあるのは確か。しかし一定のベースは必要で、それが司書資格となる。専門職が図書館を作っていれば、次に誰が担当しても図書館の水準が保たれる/ボランティア・コーディネータには、校長先生に、学校図書館の仕事はボランティアでは出来ないことを是非訴えて欲しい。

交流会を終えて

学校図書館に携わっている方たちの沢山の参加(今回初めての方も多く)があり、日頃の思いや請願に対する意見が聞けて大変有意義な時間を過ごせたと思う。現場の人たちの意見はとても貴重なのでぜひ参考にしたいと思う。しかし会としては、個人の思惑よりも町田の教育そのものを常に考えてきた。自分の立場に固執するのではなく、町田の子どもたちのこれからと、そのために何ができるのか、何をしなければならぬのかをともに真剣に考えていきたいと強く願う。ボランティアは個人の意思で始めるのだが、しかし個人の喜びや満足で終わってしまっていないはずがない。誰もがずっと指導員をできるわけではない、次の人へと引き継ぐことを考えたら、今の状況でいいはずがないのは明白だと思うのだが…。今後さらに、学校司書のよい形での導入を検討し、教育委員会にも強く訴えていきたい。参加して下さった皆さん、ほんとうにありがとうございました。(担当:市川)



ひろば



＜例会報告＞ 2/22(水) 16:30～
●会報印刷(伊藤・玉目・丸岡・
水越) 例会 18:00-20:15

出席者:石井、伊藤、斎藤、玉目、手嶋、
長谷川、水越、桃沢、山口、山本

【図書館協議会報告】 2/21(木) (山口)

- ・館長より 教育委員会関係
嘱託職員の設置要綱一部改正について(主任制度実施 2012年4月より10名)／川崎市立図書館との相互利用協定の締結について(1/30 調印式 4/1 開始)／市議会議員向けレファレンスサービスの実施について／文学館「落谷虹児展」結果
- ・図書館協議会委員の構成について
- ・まちだとしょかん第一回子どもまつり実施 3/29(木)～4/1(日)
- ・図書館一年生サービス実施 4月～
- ・2010年度図書館評価(外部評価)
評価内容がわかり映えしない。インターネットで延長ができること・職員の負担軽減のため? 中期計画がいつやるのかわからない。お話し会ボランティア養成講座、レベルアップ講座はいつやるのか。2012年度案 5月全体会議で確定→公表。
- ・12月議会の一般質問: いずれも市民の利便性についての質問だが、議員は市民の代表であり、図書館側も館内で真剣に検討しないと、サービスの発展性がないのでは。

【図書館評価について】 次回に持ち越し。

【利用者懇談会報告】 2/17(金) (玉目)

参加者が少ない(図書館側 10名 利用者側 7名内会員 3名)。広報にも出ていない、図書館HPで探しづらい、当日開始前の案内放送もないなど、周知不足ではないか。参加しやすい日時を検討するなどの気配りが必要。

- ・図書館側からの報告: 町田の図書館統計／鶴川駅前図書館について／町田市の図書館評価(2009年度)／第二次町田市子ども読書活動推進計画／入口ドア修繕関係など
- ・意見交換: 基本図書が少ない。図書館で町興しができるのでは(地方に行ったとき町田の図書館の評価が高いので)。ベストセラー以外の献本も受け入れたらどうか。懇親会終了後のフォローをしてほしい。町田の図書館統計にレファレンスの数が中央館のみ

で地域館の数が出ていないのはおかしい(地域館にレファレンス対応に有能な嘱託職員がいる)。ベストセラー以外の統計も出したらどうか。鶴川駅前図書館の名称が「緑の交流館」の中にあるのにふさわしくない。3/31で喫煙室廃止(当分空けておく)。鶴川駅前図書館 2012年10月開館(蔵書9万冊)。

*水越さんより「知の地域づくりを考える in 東京」シンポジウム参加報告ほか

地方交付税で学校司書配置の予算が措置され、国からも学校司書の必要性が認められたといえるが、ここからは自治体首長の判断にかかる。出版社にも学校図書館を支えてほしい。荒川区は学校図書館に力を入れている(区長の学校図書館の環境整備推進が大きい)。町田では2月教育長面談がキャンセルとなり、3月議会が終わらないと難しい。自治体間の理解の差がはっきりする。町田の図書指導員が何をしているか、何を考えているか全体を把握できない…会の研修会に来るのは3分の1ぐらい。研修の大切さも訴えていく。

*伊藤さんより「かえで文庫」その後の動き

現在、休命中。4月から学童の一室を使えることになったがそれまで活動は休止せざるをえない。メタセコイアが切られて残念。

*山口さんより「図書館評価」について

2009年度評価が反映または改善しているかの報告も必要。2009年度の結果を2010年度も目標に反映しているか。評価のための評価ではいけない。内部評価でできなかった理由が必要。評価項目、評価の仕方に意見やアイデアを聞いてもいいのでは。利用者の目線で考案するべき。政策に市民もかかわるようにした方がいいのでは。3月に図書館側と評価担当者でざっくばらんに話し合う意見交換会を予定している。館ごとの目標、モチベーションがわかるようにすべきではないか。外部評価のあり方: 評価に必要な資料(図書館の自由委員会の議事録、統計の根拠になるもの、危機管理マニュアル、研修会テキストなど)の提供の徹底なども。

*桃沢さんより

寄贈したい図書を引き取って活用してもらいたいのだが?(玉目さんに見てもらおうことに)

今号は原稿が集まりすぎて、調整に苦慮しました。松野さん追悼文の続きほか、載せられなかった分は次号に載せますので、どうぞご了承を。春の訪れとともに遅い開花の便りと、花粉情報が届いています。まだ芽吹いてはいないけれど、きっと地中では新しい何かが育っているでしょう。M²